

⑨高温物との
接触
(熱中症)

機関室内で熱中症を発症

発生状況



機関室内での作業中、一旦休憩をとったものの、ふらつき出したため、水を与え休憩させた。回復しないので救急車を呼んだが手遅れだった(当日の気温33℃)

原因

- ✓ 高温、高湿の状態であった
- ✓ 熱中症の怖さを知らなかった
- ✓ 熱中症に対する作業者への教育と管理者の熱中症に対する知識が不足していた



防止対策

- ✓ スポットクーラーやサンネットなど熱中症対策の設備を適切に配置する
- ✓ 適切な給水と休憩。塩飴の配布。個人で健康管理をする
- ✓ 作業者に熱中症の教育を徹底する。管理者向けの緊急時対応を教育する



暑いときは適度な給水と休憩！
管理者も熱中症の勉強を！



DATA

発生年月日
2013.07.16

発生場所

建造船
機関室内

作業名・作業内容

ダクト取付作業

死傷病名

熱中症

職種

船装職

社/協

協力員

年齢

63才

経験年数

36年

熱中症発症時の対応

手当て の方法	○涼しいところで安静にする。
	○水と水分やスポーツドリンクなどを取らせる。 ※熱けいれんは注意
	○体温が高いときは、裸に近い状態にし、冷水をかけながら風をあてる。 氷でマッサージする等、体温の低下を図る。

※熱けいれんは、汗をかいて体内の塩分がなくなることによる原因なので水分を与えない。

熱中症の素人判断は危険、無理をせずに病院に搬送しましょう。